

広報

ひがしの

198号
8月1日号

誕生100年記念 第2話 保古の湖用水物語

連載

二写真二

5月20日に学校活動支援ボランティアの篠原登志郎さん、丸山文憲さんの指導で東野小学校4・5年生の皆さんのが田植えに挑戦しました。9月には稲刈り、11月には収穫祭と今から楽しみです。

東野の人口 1637人 男:836人 女:801人 676世帯(R7.7.1現在)
4月1日との比較 総人口:+6人 男:+2人 女:+4人 +3世帯
令和7年4月1日～令和7年6月30日の東野の出生数 男:1人 女:1人 (恵那市全体 43名)

「東野ふれあいウォーキング」を開催しました

5月24日（土）に市民三学東野委員会・東野スポーツ協会主催の「東野史跡巡り・ふれあいウォーキング」が開催されました。雨が心配されましたがあが、児童・小学生が25人、大人が43人、合計68人の方の参加がありました。

●染戸遺跡コース

地区外の参加者が多く「なぜこんな場所に…」「どんな理由でこの場所に…」など質問を受けました。特に県下最大級の染戸の五輪の塔を見てびっくりされていました。また陣屋跡では、現在竹藪になっているため「こんな機会でないとわからぬ」と、お母さんが子どもに話されていました。いろいろ発見のあったウォーキングでした。

●山寺・記念碑コース

自然に囲まれた東野は、良い所だと実感しました。「こんな史跡があつたの。全然知らなんだ。」「子どもの頃此處でよく遊んだよ。」等々。ワイワイ・ガヤガヤ、みんな笑顔で元気に歩きました。道路わきに真っ黒な実をつけた大きな桑の木を見つけ、美味しくいたる桑の実に子どもたちは大喜び。



●竹林庵コース

廣田神社前の飯沼川の咳神岩には神様の2つ並んだ足跡のペトログラフがあります。八坂神社は東野村の旧村社であつたので、昭和の初め戦勝祈願の時は鎌倉杉のてっぺんに日の丸国旗を立て祈願したり、東野小学校に入学すると天満宮にお参りし、記念写真を撮つたりしていきました。西行の竹林庵までの急な坂道は、子どもには少しきつかったかもしだれませんが、皆さんがんばって上りました。最後に宗久寺の始まり、庵寺を見学し終了しました。

皆さんで八坂神社でお参りし、写真を撮りました。楽しい史跡巡りでした。



※阿弥陀様登り口で撮影

6月10日、惠那市主催の「まちづくり懇談会」が開催されました。宮の前等地区や（仮称）惠那峡SAスマートインター・エンジニアリングの現地視察を行ない、懇談会では、「持続可能な東野のまちづくりについて」をテーマに、地域の現状や課題、可能性について意見交換が活発に行われました。今後も、住みよい東野の実現に向けて、関係機関と連携しながら取り組みを進めていきます。

第21回惠那市消防協会消防操法大会 東野・三郷分団6位入賞



6月8日、惠那市消防操法大会が開催され、東野・三郷分団が見事6位に入賞しました。東野からは指揮者として加藤祐樹さん、4番員として西尾涉さん、が出場し、日頃の訓練の成果を発揮しました。本大会は市内各分団が集い、隊員の士気や隊全体の連携、消防技術などを競い合う重要な行事です。東野・三郷分団は、息の合った連携と的確な動作で健闘し、出場した加藤さん、西尾さんをはじめ、関係者の皆さんをはじめ、関係者の皆さまのご尽力に敬意を表します。今後も地域の安全・安心のため、消防団の活動にご理解とご協力をお願いします。

東野まちづくり懇談会を開催

東野ふれあい いきいきサロンの紹介

「ふれあいいきいきサロン」とは、地域で集いの場を作り交流する、地域住民の自主的な活動です。恵那市社会福祉協議会東野支部ではサロン活動の広がりを推進しています。

気軽に集まって交流を深めることにより、いきいきとした生活を過ごすとともに、閉じこもりや寝たきりなどの予防や孤独感の解消にもつながります。

今回は、東野で行われている「ふれあいいきいきサロン」2か所について紹介します。次回の広報でもいくつかのサロンについて紹介させていただきます。

福寿会

白坂集会所で活動をされている「福寿会」さんへ訪問しました。

今回は地域包括支援センターより、栄養や熱中症など、体に関わるお話をありました。参加された人達は様々な測定を行い、体内年齢などの測定結果に盛り上がりました。

代表の方からは「行事に沿つて集まつた人が楽しくおしゃべりができたらと思いやっていました」とお話を頂きました。また、参加された方からも「こうやつて会うこと、声を出しても笑う機会があつてありがたい」と嬉しそうにお話をしてくださいました。

あすなろ会

東野コミュニティセンターにて活動をされている「あすなろ会」さんへ訪問をしました。

今回のサロンでは恵那市社会福祉協議会が推進しているボッチャ体験をしました。

参加された方からは、「ボールが思つたとおりにいかず難しことんど楽しかった。」「ボーラーの芯、封筒など「雑がみ」として回収しています。



白坂集会所でのサロンの様子

みなさま、東野デポのご利用、誠にありがとうございました。

これは、環境にやさしい循環型社会の実現に貢献するだけでなく、地域の活性化にもつながる大切な取り組みが配分されます。この仕組みにより、地域の子どもたちの教育や、地域活動の充実に役立てられています。ご家庭で不要になった資源（アルミニ缶、新聞紙、雑誌、ダンボール、雑がみ）は、ぜひ東野デポをご利用ください。みなさまのご協力をお願いいたします！

東野デポで回収した資源の収益は、東野開発振興会へ50%、東野小学校へ35%、東野こども園へ15%が配分されます。この仕組みにより、地域の子どもたちの教育や、地域活動の充実に役立てられています。ご家庭で不要になった資源（アルミニ缶、新聞紙、雑誌、ダンボール、雑がみ）は、ぜひ東野デポをご利用ください。みなさまのご協力をお願いいたします！

※可燃ごみとして捨てられることが多く、多い菓子の包み紙やトイレットペーパーの芯、封筒などを「雑がみ」として回収しています。

※令和7年2月から新聞紙、雑誌、ダンボールは、紙ひもで縛らなくてもよくなりました。



保古の湖誕生一〇〇記念

保古の湖用水物語

第二話 田を二倍に

保古の湖用水の計画

- * ため池を作る場所は保古山とする。
- * 保古山から小野川までの1,800メートルは保古川を通じて水を流していく。
- * 小野川白山神社から、白坂の方へ水路を通すこと。
- * 白坂付近100ヘクタールの新田を作ること。
- * 山林・原野を田にする所が97ヘクタールと、畠を田にする所が十ヘクタール。むかしから水つきの悪い田へ水路をつくること。
- * 費用は、合計三十二万円（当時のお金で）
- * この仕事は、耕地整理組合を作つて行うこと。

関係者の努力で大正八年には、保古の湖用水の設計図、予算などができあがりました。

予定通り工事が完了すると東野の田は約二倍になる計画でした。

この計画を見た東野の人々は、本当にびっくりし、そして、心配になりました。

この計画を見た東野の人々は、本当にびっくりし、そして、心配になりました。

- * 「こんなにたくさんのお金を使い、ため池をつくって、本当に水がつくのだろうか。」
- * 「ため池が切れたら、東野は、みんな水びたしになつて流れてしまわぬいだろうか。」
- * 「ため池にお金を使つてしまふと、東野が貧乏になつてしまふ。」
- * 「などと、心配をしたり、反対をする人が増えてきました。しかし、これから東野のためにどうしてもため池をつくつて新田を拓かなければならぬ」と考へた人もたくさんいました。


たいへん立派な計画だけど、お金は大丈夫なのかな。自分たちで組合を作りけど大丈夫かな。

ため池工事 一〇〇万円
水路の工事 一二二万円
(当時 米一俵 五円)

保古の湖用水の予算



その様子は、あまりにも熱心すぎて、「あいつら、気が狂つたのではないか」と言われるぐらいでした。ちょうどこのころまゆの値段も下がりだし、生活が苦しくなつてきたのと、賛成の人々の強い熱意とで、ため池に賛成の人々が増えてきました。

そして、県から「耕地整理組合」を作つてもよいという許可がもらえたので、準備は整いました。

文 三宅勝義

参考文献 保古用水沿革史

東野耕地整理組合

耕地整理組合とは、耕地整理法に基づき土地の農業上の利用を増進するため、土地の交換、分合、開墾、地目交換、区画等の変更や道路・ため池等の灌漑用水に関する工事を行う組合です。この組合で行う一〇町歩以上の事業には、県は県の査定した費用の一〇分の三〇五の補助金を支給し、国は一〇〇分の四〇の開墾助成金を支給することになつていきました。

東野耕地整理組合の組合長は永野鈴吉氏、副組合長には土方浅次郎氏、篠原兵衛氏、西尾実氏、伊藤武衛門氏が就任しました。